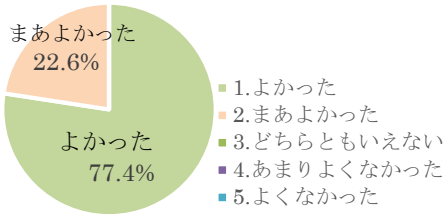
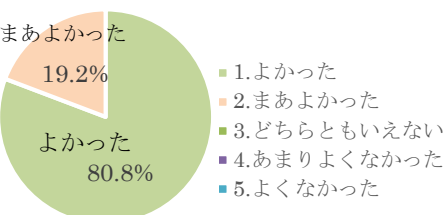
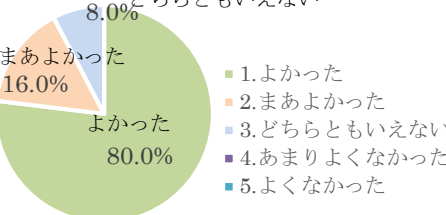


特別養護老人ホーム ご家族様へのアンケート結果(平成 28 年 10 月実施)

ご協力誠にありがとうございました。このアンケートは、今後のよりよい運営やサービスの質の向上を図るための改善につなげてまいります。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

特別養護老人ホーム笑美の里	笑美の里ショートステイセンター	笑美の里デイサービスセンター
アンケート回収数 31/54 57.4% 1.この施設を利用してよかったですか 	アンケート回収数 26/40 65.0% 1.ショートを利用してよかったですか 	アンケート回収数 25/50 50.0% 1.デイサービスを利用してよかったですか 
<b>ご意見等</b> ・職員の名前と顔写真があると嬉しい ・居室や廊下にオムツ臭等無くて配慮していると思います。 ・利用者様に対する支援が職員によって差があるように思う。 ・いつもお世話になり大変感謝しています。	<b>ご意見等</b> ・短期での1日の流れがよくわかりません。また入浴の回数を増やしてほしい。 ・職員の組織図を掲示してほしい。 ・月の初めに「たより」がほしい。 ・食費が高い ・食事を増やしてほしい	<b>ご意見等</b> ・送迎について人により満足できない時がある。 ・時間が制限される中で親切に対応してもらっている。 ・介護家族のための勉強会を定期的に行ってほしい。 ・毎日楽しんでます。
<b>アンケート総括</b> ・玄関ロビーに施設全体の「職員配置表」を掲示します。皆様に担当職員など一目でわかるようにしていきます。	<b>アンケート総括</b> ・連絡帳や「たより」の中で、ご利用者様の日々のご様子をできる限りご家族様にお伝えしていきます。	<b>アンケート総括</b> ・体調に合わせた健康体操実施に心がけていきます。 ・勉強会の計画を今後していきます。

地域福祉活動：①出前トーク		
4月	下之川地区：山口公民館	14名
6月	石名原地区：寺村集会場	10名
7月	八地地区：小西公民館	17名
9月	奥津地区：奥津須御集会場	15名
10月	丹生俣地区：丹生俣集会場	14名
②えみ寺子屋		
11月	美杉文化祭出展 手芸品	
12月	門松、しめ縄作り教室	



地域福祉の推進：「友交会」活動  
3本の柱「よく学び・よく働き・よく遊ぶ」

地域福祉活動として、地域の人々の結びつきを深めるために「出前トーク」や「えみ寺子屋」を開催していきます。



【資料1】ご利用者様の平均要介護度は4.2で、全体的に介護度は上がっています。平均年齢も89.1歳と大変高齢となっており、100歳以上の方も6名入居されています。施設では少しでも施設での生活が充実したものになるように、個々のご利用者様に合ったサービス計画を立て実行しています。

【資料2】平均介護度は通所介護が1.6、短期入所生活介護が2.5となっています。通所では健康体操を中心に、身体機能の維持を目標として機能訓練に取り組んでいます。初めての方には体験利用も実施しています。短期では、緊急的な受け入れも積極的に行っています。ご家庭でお困りになっていることやご相談があれば施設までご相談下さい。専門職を中心にできる限り対応させていただきます。

【資料2】事業所別稼働率平成(28年4月～12月)

事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
特養稼働率	95.4%	90.3%	92.3%	96.5%	94.7%	95.5%	92.17%	93.7%	95.1%	94.1%
短期稼働率	89.6%	93.3%	94.2%	93.5%	98.2%	91.3%	86.7%	90.4%	89.1%	92.1%
通所稼働率	76.1%	73.4%	74.4%	80.8%	81.1%	80.0%	86.3%	80.5%	75.7%	80.0%

【資料1】特別養護老人ホーム利用者状況(平成28年12月末現在)

年齢階層	人数	要介護度	人数
60～69歳	1名	1	0名
70～79歳	5名	2	1名
80～89歳	21名	3	9名
90～99歳	21名	4	22名
100歳以上	6名	5	22名
合計	54名	平均要介護度：4.2	





# 明光会たより

第15巻 第1号  
(通巻27号)  
平成29年1月10日 発行  
社会福祉法人 明光会  
津市美杉町八知 729-1  
TEL: 059-272-8800

## 賀正



社会福祉法人 明光会  
理事長 東 明彦

明けましておめでとうございます。昨年中は、法人運営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り誠に有難うございました。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年末で、私自身の三年日記が一冊終了しました。記憶力減退効果・認知症予防に少しでも役に立ったかも知れません。日記を購入する際には、なぜか三年日記を選びます。今年も例外なく黒表紙の馴染みのものを購入しました。

三年間の正月を振り返りますと、三年前は、医療職として働く娘の赴任先であるモザンビーク共和国にいました。この国は、アフリカ南東部に位置し、人間開発指数は、世界ワースト四の最貧国です。でも滞在中のホテルでは、参加者が「白一色」で正装し、打ち上げ花火と豪華な食事で新年の祝杯を挙げていました。巷の光景とのギャップに驚いた次第です。

二年前の正月は、名張に雪が積もりました。その雪の中を一人で皇居の一般参賀に出発しています。目の前で天皇一家を拝顔し、日本の安泰を祈りました。一年前は、南国沖縄で息子家族達とのんびり過ごしました。

三年間の日記を紐解くと、非日常の世界に浸り、心と身体をリフレッシュした記憶が鮮明に蘇ってきます。やはり日記はいいものですね。お薦めです。

昨年六月から、名賀医師会会長の職を務めさせて頂いております。

医師会活動ですが、地域医療構想、在宅医療、介護保険、母子保健など多岐に渡り、それらの多くの課題があります。

また、地震が群発する我が国では、災害医療も責務です。医師会・行政・住民らとともに、より現実的な災害医療を考えていかなければなりません。

近年は、高齢者の変死や孤独死が増えたことから、警察医としての出勤も増えています。

名賀医師会は、平成二十三年度から名張市が開設した「在宅医療支援センター」の運営事業を受託するとともに、「在宅医療推進事業を重点的に取り組んでおります。在宅医療支援センターが先

駆的に行っていた「多職種連携研修や医療介護福祉ガイドマップ作製」等は、介護保険制度の改正により、「医療介護連携事業」として法的に位置づけられ、平成三十年には全ての市町村で実施しなければならぬことになりました。

その事業の一環で昨年度実施した「医療介護福祉フェスタ」では、「在宅ケアチーム こんなことできるんです」をテーマに、講演・展示・体験、寸劇、多職種での相談、販売などを行いました。

寸劇は、健康に自信のあった男性高齢者がトイレで倒れ、救急搬送、入院、その後退院して在宅に戻るプロセスを二十五分程度の劇にしたものです。

出演者は、在宅支援実務者会議委員を中心に、介護保険事業所職員、医師、歯科医師、薬剤師、リハビリ職、看護師がそれぞれの役を演じました。二百名以上の参加者があり、大盛況でした。

また、名賀医師会では、二十七年度の事業として、「よくバリ青春体操」の開発研究を行いました。

この開発事業は、三重県が事業主体となり、県下の郡医師会が行う地域の関係職種と連携して、地域の実情に応じた健康寿命の延伸を目指したものです。

名賀医師会では、「かかりつけ医が進める筋力アップ、生活不活発病予防の体操開発事業」を三重県に提案したところ、運よく採択され、事業の実施となりました。今後は、地域主体のサロン等を活用して、地域づくり組織やボランティア、行

政機関等の関係者と連携し、その普及啓発に努めているところです。

現在、DVDや冊子を作製し、関係事業所に配布しております。関心のある方は、在宅医療支援センターにお尋ね下さい。

内容は、筋力アップ体操だけではなく、中高年者に多い、肩・腰・膝の痛みの緩和体操、最近注目されている認知症予防体操も併せて作成予定です。

「よくバリ青春体操」の名称は、「寝たきり・認知症・痛みのないあの頃のまま」をイメージし、それに、名張の「バリ」を合わせて、親しみやすい名称に決定しました。

医師会がこういう取り組みをすることに、期待と関心が高まりつつあります。

医師会の先生方には、普段のご自身の診療以外にこれだけ多くの地域課題に取り組んで頂いております。

医療を取り巻く現状は、大変厳しいものがありますが、私のように「地域医療」を担う開業医としては、果たして病気を治す「ケア」が必要なのか、症状を安定させて、よりよい生活を送り易くする支援を行う「ケア」が必要なのかを判断しなくてはなりません。

このことは、私自身の問題として、いざという時のために、望まない「ケア」の意思表示が大事だと考えております。

本年も微力ながら、地域に根差した法人運営ができるよう、法人役員一同精進して参ります。更なるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。